

## 印西大師 番外 発作・最勝院

- 1 名称 (No.171/303)〔手引鏡：最勝寺〕〔資料館：最勝寺〕〔行程表：最勝院〕
- 2 場所 印西市発作632 最勝院(さいしょういん)  
浦部・歓喜院から道程約2,630m  
GPS座標 35.83287959347865, 140.12277476643496



- 3 由緒 天台宗  
寺耕地628-3にあり天台宗で泉倉寺末、阿弥陀如来を本尊とする。(平成6年寺院堂庵明細表)

- 4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が2体あり。うち1体の台座に「印西大師 第三十五番」とある。
- 5 境内 大師堂のまわりは集会所と墓地、印西七福神。隣に大杉神社がある。
- 6 写真 (2023.01撮影)



大師堂



御大師様



御大師様



大師堂



御詠歌



印西七福神(布袋尊)

### 7 情報

#### (1) 四国八十八ヶ所 第35番 清滝寺 御詠歌

澄む水を 汲むは心の清滝寺 波の花散る 岩の羽衣

醫王山(いおうざん) 鏡池院(きょうちいん) 清瀧寺(きよたきじ) 真言宗豊山派 薬師如来高 知県土佐市

## (2) 御大師様の台座に「印西大師 第三十五番」と表示

「印西八十八ヶ所手引鏡」に、「(表紙裏書・異筆) 三十五同(番) 発作 中根 なみのどう」との記載がある。また、印旛歴史民俗資料館の「印西大師巡拝順路図」には「第35番 中根 浪の堂 東漸寺 印西の発作へ遷座が決まるも遷座せず現在に至る」、「本番札所の協議をされたのは昭和十年代当初と推察されます」との記載がある。ということは、ここでいう「発作」というのは最勝院のことで、台座に「印西大師 第三十五番」とあるのは、ここに遷座されたのだ、ここが第35番札所だという意思表示のように見える。

「昭和十年代当初」といえば、昭和11年には2.26事件、昭和12年には盧溝橋事件・日中戦争勃発、昭和13年には国家総動員令公布と、急速に戦時体制へ移行していった時期なので、協議がされたものの遷座は中止又は先延ばしになったのであろうか。ちなみに白井大師においても昭和12年度は巡行が行われたものの「非常に付き白井結願延期」(白井市郷土史の会「たいわ」No.37)となったように、とりわけ昭和12年7月以降は日中戦争勃発により「戦時」又は「非常時」という意識が生じ、大師講もその影響を受けたとも考えられる。また、昭和13年6月の台風で利根川が大洪水となったことから発作地区はたいへん厳しい状況に至ったことも関係があるかもしれない。

## (3) 総州六阿弥陀

総州六阿弥陀とは、文政10年(1827年)開創の霊場で、第1番・徳満寺(利根町布川)、第2番・延命寺(我孫子市布佐)、第3番・泉倉寺(印西市和泉)、第4番・長楽寺(印西市大森)、第5番・三宝院(印西市竹袋)、第6番・勢至堂(利根町布川)は現存せず布川不動堂(利根町布川)へ移動と、番号の付いた札所が6か所のほか、最勝院(印西市発作)、来見寺(利根町布川)、無量寺(利根町中谷)、念仏院(利根町押付新田)、瑞光寺(利根町押付新田)から水神宮(利根町押付本田)へ移動、と番外の札所が5か所あり、計11か所の札所で構成されている。(「ニッポンの霊場」HPより)